

広報

もり 中部の森林

写真：阿寺溪谷「狸ヶ淵」の紅葉(大桑村観光協会提供)

各地からのたより〈拡大版〉

- ・秋の行楽シーズンに向けて！防火水槽一斉点検を実施
- ・高山植物等保護パトロール活動 ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業、お役に立ちます国有林

私の森語り!「職藝学院の森」
専門学校 職藝学院 准教授 柳 真子



2021/No.211



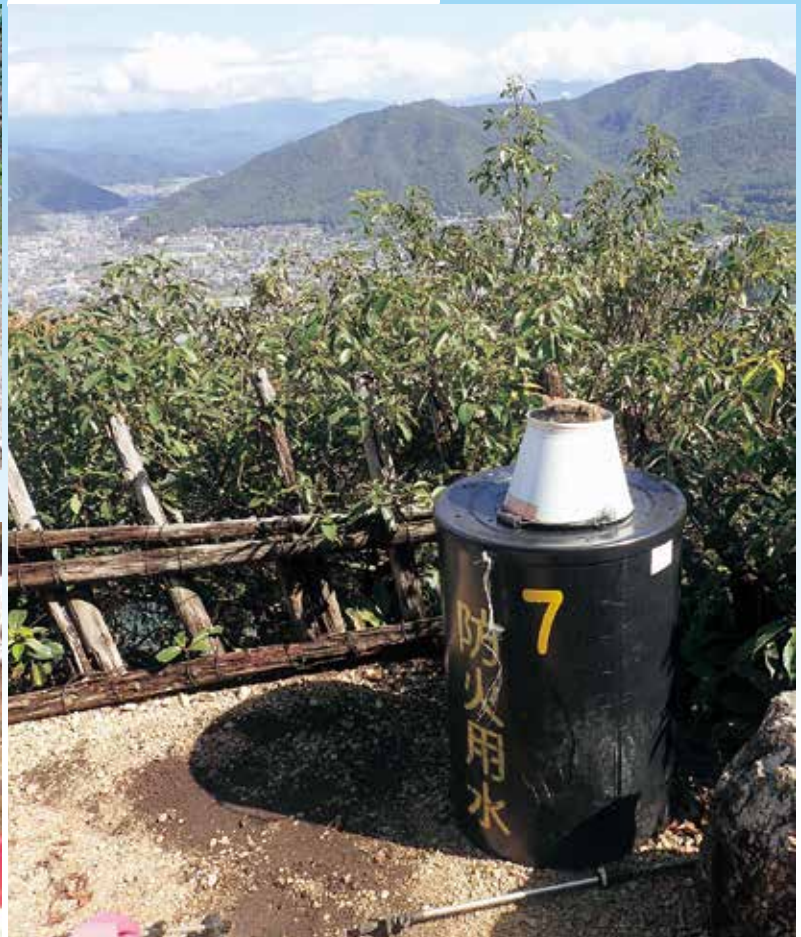
林野庁中部森林管理局



ひやくまが
百曲り登山道沿いNo.16の防火水槽



ふた
蓋を開けると水が貯まっています



こみち
めい想の小径登山道沿いNo.7の防火水槽

**秋の行楽シーズンに向けて！
防火水槽一斉点検を実施**

【岐阜森林管理署】

九月七日、秋季全国火災予防運動(十一月九日～十五日)までは少し間がありますが、残暑もひと段落したこともあり、金華山(きんかざん)国有林一帯の防火水槽一斉点検を行いました。

金華山は、年間を通して多くの登山者が訪れますが、特にこれからの時期は季候も良くなることに加え、コロナ禍での運動不足やストレス発散に訪れる人が増加しています。入山者が多くなることで、心配されるのが山火事です。

金華山全域は、路上喫煙禁止区域となつていますが、山火事は煙草だけが原因とは限らないため、対策として、各登山道沿いの四十五箇所に防火水槽を設置し、緊急時には初期消火対応ができるようにしています。さらに、岐阜市消防本部とは防火水槽の位置情報を共有しているので登山道沿いで火がくすぶっているような所を

発見した場合は「金華山の〇〇番防火水槽付近で山火事です」と伝えていただければ素早い対応が可能となります。

また、初期の消火活動にも可能な範囲で、ご協力をお願いしますが、危険と思われる場合は、直ちに避難して安全な場所から通報をお願い致します。

この防火水槽は、山火事のみならず、現在地を把握するための目印にもなっており、登山中に怪我などで、動けなくなった時や、山中で迷子になった時も慌てずに、「金華山の〇〇番防火水槽付近で怪我をしたので救助をお願いします」と連絡をいただければ救助までの時間を短縮することができます。登山時に今、何番の防火水槽付近を過ぎたか、現在地の把握に役立ててください。

写真撮影には邪魔になることもあるかもしれませんが、防火水槽は今日も皆さんの安全・安心な登山を見守っておりますので、ご理解ください。



救助ヘリ



看板の修復作業



崩壊した登山道の確認



踏み込み防止表示作業



岩の間のゴミ拾い



外来種セイヨウタンポポの除去

高山植物等保護 パトロール活動



【富山森林管理署】

昭和四十六年から五十年間にわたって実施している高山植物等保護パトロール活動について、本年も七月十九日から八月十八日までの一ヶ月間実施しました。

例年は四地区に分かれて実施していますが、今年度はコロナ禍の影響により黒部地区、白馬朝日・北又地区を中止とし、立山地区及び薬師岳・雲ノ平地区の二地区六名での活動となりました。

今年度の活動については高山植物やライチョウ等の希少動植物の保護、登山者の案内や踏み込み防止、ストックキャップ着用等の登山マナーの啓発、山岳美化活動等に加え、国立公園と国有林との連携推進のため、自然環境の負荷の低減に向けた登山環境整備の検討に必要となる登山道や看板の現状把握・情報整理にも取り組みました。

最終日の解団式では、「今年はマスクのゴミが多かった」、「ス

トックキャップは気づかないうちに外れてしまうことが多いので、予備を持って行き、注意喚起の際に渡せる方がよい」、「このパトロール活動のことを知っている登山者から話しかけてもらうことや素直に話を聞いてくれる方も多く、長年続けてきた活動であることを改めて感じた」といった報告を多く受けることができました。

また、薬師岳・雲ノ平班では、パトロール活動中に負傷した登山者を発見し、山小屋や警察への連絡、救助ヘリの要請を行い、迅速な救助活動に繋がりました。後日、救助された方から当署へお礼の手紙が届き、しっかりと対応できたことを嬉しく思いました。

早くコロナ禍が収束し、以前のように四地区体制で自然環境の保全や地域振興に貢献できることを願っています。



〈各地からのたより〉

南ア外来植物
除去活動を実施



【南信森林管理署】

七月二十八日、伊那市長谷地区の南アルプス林道沿いでの外来植物除去活動（南アルプス食害対策協議会主催）を、地元長谷小学校の児童、市職員、信州大学生とともに実施しました。

作業前に信州大学農学部わたなべの渡邊修おさむ准教授から除去すべき外来植物の説明を受け、標高一、七〇〇メートル付近の歌宿から、南アルプス林道の玄関口である戸台大橋とだのおおはしへ向けて出発しました。

現地では、外来植物のヒメジョオン、ビロードモウズイカ等が昨年に比べ格段に減少しており、毎年継続して除去している成果を実感しました。

昨年の豪雨、台風による道路の一部決壊等で現在もバスは終点の北沢峠きたざわとうげまで行けないため登山客は少なく、また、コロナ禍の影響により減少しているせいなのか、林道脇の斜面にはニホンジカの足跡が多くはつきり獣道（シカ道）が



ビロードモウズイカを除去する児童たち



見られ、ウドの新芽はほぼ食べつくされ、不嗜好性ふしこうせいのマルバダケブキが多く残っていました。入り込み者の減少がニホンジカの生息密度に大きく影響をもたらしているかもしれません。
昼食後は、約六キロメートルの作業を終え、帰りのバスに乗り込むと、あれほどはしゃいでいた子供達もウトウトしていました。
晴天の中、無事に作業が終了したことに感謝を申し上げます。

大阿原湿原
森林教室の開催



【南信森林管理署】

八月五日、伊那市長谷の黒河内国有林内にある大阿原湿原で当署が主体となり、上伊那農業高等学校コミュニティデザイン科里山コース二年生を対象に長野県土木協会てんりやう天竜支部の指導のもと森林教室を開催しました。

この取組は湿原に訪れる多くの人々の安全と、貴重な湿原を守っていくこと、遊歩道周辺の森林について学習することを目的として毎年開催しており、今年で十七年目となります。

現地の大阿原湿原は、冷涼な気候のため有機物の分解速度が遅く泥炭層でいたんそうが発達しており、遷移せんいの過程でも老年期に入った高層湿原（泥炭が多量に蓄積されて周囲よりも高くなったために地下水では涵養されず、雨水のみで維持されている貧栄養な湿原）と呼ばれる湿原です。

森林教室は、指導者の紹介、そして、作業内容についての説明後



修復後のきれいになった木道



木道の改修を行っている様子

に、国有林の多面的機能や大阿原湿原についての解説を行い、昼食後は、腐食した木材の交換や緩んだ杭の打ち直し等の修繕、木道の苔の除去等の清掃を行いました。
天竜支部の皆さんのご指導もあり安全に作業を行うことができ、生徒からも湿原の保全に貢献できたとの声が聞きました。
今後も、森林教室を通じて大阿原湿原の自然環境保護に努めてまいります。

県民協働の山岳環境整備
ボランティア活動を実施

【富山森林管理署】

八月七日、立山のブナ坂国有林内において、県民協働・山岳環境整備事業が行われました。

この事業は「山の日」が制定されたことに関連し、立山の山岳環境の保全と、適正な利用を県民協働で推進することを目的に、平成二十八年年度から開催され、富山県、環境省、立山黒部貫光(株)、当署などが協力し、今年度で六回目を迎えました。

午前中は、様々な高山植物や池塘が見られる弥陀ヶ原の遊歩道に滑り止めのプレートを設置しました。遊歩道を行き交う登山者の方



滑り止めプレートの設置作業

から感謝や労いの言葉をいただきながら、標高一、九〇〇以上の涼しい風にも後押しされ、みんな楽しんで作業すること



ができました。

午後は標高二、五〇〇以上の室堂に移動し、高山植物のウラジロタデと低地産外来種であるイタドリの見分け方を学んだ後、イタドリだけを除去するミッションに取り組みました。

高山植物の観察会も行われ、外来植物除去の大切さを実感できる良い機会となりました。



山岳環境整備ボランティアのみなさん

森林技術・支援センター
新築工事関係者
連絡会議を開催

【森林技術・支援センター】

森林技術・支援センター新築工事が、中部地方整備局宮繕部の発注で八月に契約締結され、九月十四日に発注者、受注者、中部局、岐阜署、当センターの各担当者に よる第一回工事関係者連絡会議が旧庁舎内において開催されました。

会議では中部地方整備局から工事概要、設計図、全体工程等の説明が行われ、引き続き、受注者から仮設計画図、入居官署への協議事項、安全管理計画、地元対策等の説明があり、各機関からの質疑・要望を受けた後に、具体的な対応等の説明が行われました。

工事は旧庁舎の解体から着手し、現敷地の約半分を利用して、木造平屋建て床面積約二八五平方メートルの新庁舎を設置する計画で、令和四年八月の完成引渡しを目指して工事が進められます。

なお、主構造や壁材等には耐震性や断熱性に優れるCLT(ひき板



を繊維方向が直交するように積層接着したパネル)と在来軸組構造を組み合わせて施工性にも考慮した設計としているほか、木質バイオマスエネルギーを効率的に活用するため、ペレットボイラーを使用した暖房設備を採用しています。

旧庁舎は、昭和三十四年に旧下呂営林署として新築され、当センターへと変遷する中で、六十年余りの間、地域林業の振興に寄与してきたっており、諸先輩等からは名残惜しいといった言葉を聞きました。が、現職員は新庁舎の完成を心待ちにして、仮庁舎での業務に精勤しております。



解体前の森林技術・支援センター

シリーズ

森林官からの便り

【伊那総合治山事業所

飯田治山事業所

治山技術官 橋戸 俊

飯田治山事業所は、長野県飯田市内に所在し、木曾山脈に源を發する天竜川流域松川上流域の約五、二八四ヘクタールの民有林を事業区域とする民有林直轄治山事業を実行しています。



松川入地区 最上流域の荒廃状況

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特徴などを紹介します。

松川入地区における治山事業

は、昭和二十八年から長野県が実施していましたが、度重なる台風や豪雨災害による上流域の崩壊地からの土砂流入によって、飯田市民の上水道水源である県営松川ダムの機能の確保が危機的状況となったことで、地元や長野県の要請により、平成五年度から民有林直轄治山事業に着手し、森林への回復を目的に治山工事を継続的に実施しています。

事業区域は大半が花崗岩深層風化地帯で、マサ化による浸食が著しい土質に加え、一見同じように見える崩壊地でも、一つ一つ特徴が異なるため、それぞれの崩壊地に応じた工種や工法の選択、特に緑化工は林地復旧の重要なポイントになります。種子配合や施工時期、過去の施工成果を考慮しながら、山腹工（緑化）を主体に復旧工事を行っています。また、資材運搬等が困難な奥地の崩壊地には、

ヘリコプターによる航空実播工（種子散布）により、森林への早期復元、機能回復を行っています。



ヘリコプターによる航空実播工の様子

近年、全国で局地的豪雨が多発し、土石流などにより、国民の生命や財産に甚大な被害が発生しており、これまで以上に治山事業が担う役割は重いと感じています。地域住民への山地災害危険地区の周知や治山事業のPR活動を積極

的に取り組むとともに、山地災害防止など地域の安心・安全を守るため、引き続き治山事業に取り組んでいきたいと思ひます。

■未来の担い手へのメッセージ

私自身は治山業務一年目であり、日々状況が変化していく工事現場では、様々な検討事項等に悩みもありますが、その中で知識や技術が得られることや、目に見える形で成果が現れることに、やりがいを感じています。

これから治山事業を担う方には、数多くの工事監督等を経験し、知識や技術を習得し、今後の治山事業を一緒に担っていきましよう。



事務所にて（筆者）

シリーズ

「私の森林語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



「職藝学院の森」



専門学校 職藝学院
環境職藝科 准教授
やなぎ 真子

■自己紹介

富山県にある木造建築（大工）、インテリア（家具・建具）、庭づくり（造園・ガーデニング）のプロの技術者育成をめざす専門学校で造園部門を担当しています。

■活動内容

全国的な職人の減少による伝統の技能・文化を担う大工・庭師の必要性に伴い、平成八（一九九六）年に開学しました。



建築職藝科（大工）実習
（自分で鑿を研ぎ木材加工）

建築職藝科（大工・家具・建具）の学生は、大工道具（鑿・鉋など）の手入れ・扱い方から、無垢の木材加工による実際の建物づくりや、家具・建具づくりまで学びます。学内の実習棟（五棟）は学生実習で建てたものです。道具が使えるようになり経験を積むと、積雪で根元が曲った材も、学んだ技術を活かして、適所に使うことができるとようになります。

特色ある

授業として、建築と環境の学生が合同で、山林の樹木生育・伐採現場、木材の流通を学ぶ「川上から



実践道場 「川上から川下へ」

川下へ」や、家づくりと庭づくり（住宅や庭の設計）を同時に学ぶ授業などもあります。

■メッセージ

私達が「職藝学院の森」と呼ぶ、キャンパス内の約三五〇〇平方メートルの天然生林を残すために、建物は敷地の端に配置されています。数十年前から薪炭林としては利用されなくなった「森」の大部分は、今でもあまり手を加えないように管理しています。

学生は講義棟から「森」を通って実習棟へ移動します。四季折々の植物の状態を目にすることにより、植物本来の性質や生育環境を、学生はより深く理解するようになります。

「森」を通るのは学生ばかりではありません。動物達もしばしば姿を現します。ニホンザルは群れで

現れ、追いかけてっこ。めったに姿を見せないニホンカモシカも、足跡で通過を知らせてくれます。職藝学院で二年間過ごした学生は、動物を含めた自然との関わり方を感覚として身につけ、卒業していきます。「森」は生きた教材として大切な役割を果たしています。



職藝学院の森

○連絡先

専門学校 職藝学院
〒九三〇-1129
富山県富山市東黒牧二九八
TEL 〇七六-四八三-八二二八
<https://www.shokugei.ac.jp>





中部森林管理局では、森林の公益的機能の発揮や林業の成長産業化に向けて様々な取組を行っています。その中から民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様に、参考にしていただけたら幸いです。

また、当局ホームページにおいてもこれらの事例を紹介しています。

詳細は、QRコードを読み込んでください。



国有林おさんぽMAP ~国有林を歩いて健康づくり~

1. ねらい

中高年の方々を中心に、季節毎の景色を楽しみつつ、気軽に楽しく心身の健康づくりを行っていただくため、45ヶ所のおさんぽコースを紹介しています。

2. 概要

登山やトレイルランなどの運動負荷の高いコースはハードルが高いけれど、舗装路の散歩では物足りない。そんな需要に応えようと「登山未満、マチナカ以上」をコンセプトに、中部森林管理局管内各地の国有林から、中高年の方の体力づくりに必要とされる「中等度の負荷を与える運動を30分以上」行うことができるコースを厳選しました。

また、森林で過ごすことの効能に加え、骨粗鬆症や認知症を予防するのに効果的な歩き方もご紹介しています。実際に歩いた職員の年代、身長、所要時間、歩数もコース選びの参考にしていただけるよう掲載しました。

公表ページURL

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/welcome/invitation/sanpo-map.html>



コース名	距離	所要時間	歩数
1. 白駒の池	約1.5km	約30分	約2,000歩
2. 大野山	約2.0km	約40分	約2,500歩
3. 大野山	約2.5km	約50分	約3,000歩
4. 大野山	約3.0km	約60分	約3,500歩
5. 大野山	約3.5km	約70分	約4,000歩
6. 大野山	約4.0km	約80分	約4,500歩
7. 大野山	約4.5km	約90分	約5,000歩
8. 大野山	約5.0km	約100分	約5,500歩
9. 大野山	約5.5km	約110分	約6,000歩
10. 大野山	約6.0km	約120分	約6,500歩
11. 大野山	約6.5km	約130分	約7,000歩
12. 大野山	約7.0km	約140分	約7,500歩
13. 大野山	約7.5km	約150分	約8,000歩
14. 大野山	約8.0km	約160分	約8,500歩
15. 大野山	約8.5km	約170分	約9,000歩
16. 大野山	約9.0km	約180分	約9,500歩
17. 大野山	約9.5km	約190分	約10,000歩
18. 大野山	約10.0km	約200分	約10,500歩
19. 大野山	約10.5km	約210分	約11,000歩
20. 大野山	約11.0km	約220分	約11,500歩
21. 大野山	約11.5km	約230分	約12,000歩
22. 大野山	約12.0km	約240分	約12,500歩
23. 大野山	約12.5km	約250分	約13,000歩
24. 大野山	約13.0km	約260分	約13,500歩
25. 大野山	約13.5km	約270分	約14,000歩
26. 大野山	約14.0km	約280分	約14,500歩
27. 大野山	約14.5km	約290分	約15,000歩
28. 大野山	約15.0km	約300分	約15,500歩
29. 大野山	約15.5km	約310分	約16,000歩
30. 大野山	約16.0km	約320分	約16,500歩
31. 大野山	約16.5km	約330分	約17,000歩
32. 大野山	約17.0km	約340分	約17,500歩
33. 大野山	約17.5km	約350分	約18,000歩
34. 大野山	約18.0km	約360分	約18,500歩
35. 大野山	約18.5km	約370分	約19,000歩
36. 大野山	約19.0km	約380分	約19,500歩
37. 大野山	約19.5km	約390分	約20,000歩
38. 大野山	約20.0km	約400分	約20,500歩
39. 大野山	約20.5km	約410分	約21,000歩
40. 大野山	約21.0km	約420分	約21,500歩
41. 大野山	約21.5km	約430分	約22,000歩
42. 大野山	約22.0km	約440分	約22,500歩
43. 大野山	約22.5km	約450分	約23,000歩
44. 大野山	約23.0km	約460分	約23,500歩
45. 大野山	約23.5km	約470分	約24,000歩

3. 成果

利用者からは、「整備された歩道で歩きやすかった。」「久しぶりに空気がおいしかった。」「北アルプスの眺望が素晴らしく、違う季節にまた行きたい。」といった声が寄せられています。



4. お問い合わせ先

保全課 電話026-236-2561

お役に立ちます 国有林
民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様へ



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第6回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「鋸での伐採」

斧と並んで重要な伐採の道具であったのが鋸です。木の伐採のためのものなので、大工さんが使うような両刃の鋸や製材用のものではなく、片刃で木の繊維を横に挽く形です。



大正時代末頃の伐採風景
(現在の木曾森林管理署管内)

体力が必要な作業ですが、パワーというよりも技術(コツ)と持久力が要求されました。また、効率よく伐採作業を進めるためには日に何度も鋸刃にヤスリを掛けて「目立て」をすることが重要でした。



昭和30年代頃の伐採風景
(旧名古屋営林局管内)

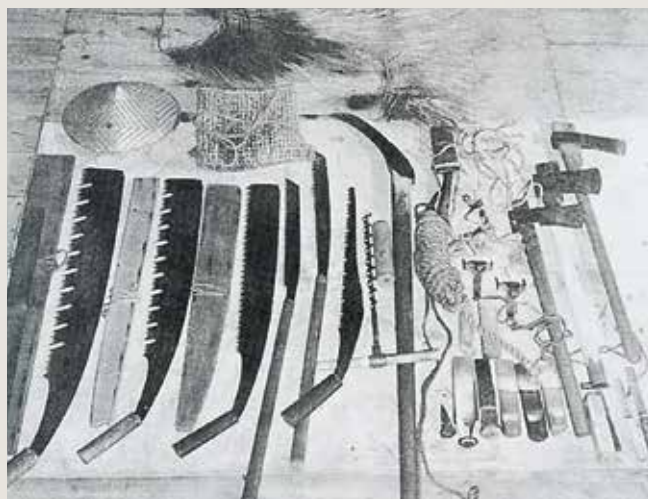


昭和25年頃の伐採風景
(現在の東信森林管理署管内)

斧を使った伐採でも、最後に伐倒方向の反対側から「追い口」と呼ばれる切れ目を入

れる際には鋸を使うケースが多かったようです。

昭和三十年代に進んだチェーンソーの普及により、長らく伐採の現場で活躍し象徴的な道具であった斧や鋸に代わって、林業用機械の活躍が増えることとなります。



昭和30年代中頃まで使われた伐採道具
(現在の南信森林管理署管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。





ガンヨウラン

ミヤマコゴメグサ

カライトソウ

タカネマツムシソウ

ミヤマリンドウ

ミヤマオダマキ

シリーズ

中部の保護林(第6回)

四百種におよぶ高山植物の宝庫

北アルプス (朝日・白馬連山) 生物群集保護林

設定目的

日本海側気候の特長を示すブナ帯から高山帯にかけての代表的な森林帯が分布しています。

朝日岳から日本海までの距離は短く、冬の季節風を直接受けるため、代表的な日本海側の植生となっています。高山植物種数は四百種にも及び、この地域は高山植物の宝庫となっています。

この地域の貴重な森林生態系の保護・管理を図るために、保護林として設定しています。

地況・林況

朝日岳から白馬岳しろうまたけ 一帯は、山岳の地形が変化に富み、地質は古生代から中生代の様々な岩石が分布しており、石灰岩、蛇紋岩等がみられます。

植生は、ブナクラス域からトウヒ・コケモモクラス域までが分布しています。下部ではブナ、マルバマンサク等の群落が、中腹ではダケカンバ等が、山頂部は高山植物が分布し、種数及び固有種が多い地域となっています。

保護林の中央には白馬大雪渓はくばだいせつがひがあり、ハイマツ、ハクサンコザクラ、ミヤマキンポウゲ等の高山植物が生育しています。

所在地

富山県朝日町・黒部市、長野県白馬村



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。



オコジョ

ライチヨウ

タカネトウウチソウ

ヤマルリトラノオ

アキノキリンソウ

ウサギキク

国有林モニターのご紹介



すみもりやす
鷲見守康
(愛知県)

◇自己PR…(趣味や特技など)

トレッキング・ハイキング、
自然観察、森林浴

◇国有林モニターに

応募いただいた理由

森林環境に関心があり、応募
しました。

◇国有林に期待すること

世界有数の森林大国であり、
生物多様性に富んだわが国の
森林を未来に向けて維持・保
存してほしいと思います。

※写真の花は、南砺アルプス
(富山県南砺市)に咲く「オオ
ミスミソウ」です。

国有林モニターからのお便り

国有林モニターのペンネーム「カメラ親父
(長野県)」さんは、七月と九月に「乗鞍岳畳平」
に行ってきたそうです。その時の写真が送ら
れてきたのでご紹介致します。



標高2702m日本一高いところにある
乗鞍バスターミナル周辺の様子

乗鞍森林パトロール
センター(飛騨森林管理署)



カメラ親父さんのコメント！

見つけました。中部森林管理
局の「三角小屋」。外観だけで
すが、「へー」って。
まさか此処に管理事務所(?)
が在るとは…です。



クロユリ



ヨマクサ

今月号の「阿寺溪谷」を紹介 表紙の写真

阿寺溪谷は、木曾五木(ヒノキ、サワラ、ア
スナロ、ネズコ、コウヤマキ)や一〇〇年を超
えるヒノキ人工林に覆われ、雨が降っても濁ら
ないといわれる清らかに澄んだ水が、滝や深い
淵を造りながら流れています。淵は、吸い込ま
れるような深いエメラルドグリーンに染まり、
木曾川で最も美しい支流の一つといわれていま
す。これは、基岩が白く、随所に深い淵が発達
しているためで、周囲の緑や岩の白さとともに
訪れた人々を魅了しています。



阿寺溪谷 牛ヶ淵 (大桑村観光協会提供)

アクセス

○公共交通機関「JR野尻駅下車」

徒歩約二十分、タクシー約七分

○自家用車

中央道 中津川ICから約四十五分

中央道 塩尻ICから約九十分

★国道十九号「阿寺溪谷入口」信号から車で約三分

お問い合わせ先「大桑村観光協会」

電話：〇二六四一五五―四五六六

※阿寺溪谷の詳細は、下のQRコード

(おおくわナビ)を読み込んでください。



(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、
migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

編集長だより

中部の山々も頂から里の方に紅葉が進み移り行く季節を演出しています。

この季節は、公園等を歩いているとなんともいえないカツラの甘い芳香が漂ってきます。カツ
ラは、春・夏・秋と香りを放ちますが、秋に特に香りを強く放ち、落葉した葉は分解菌によって
発酵がはじまります。セルロースは酵素で切断されると糖になり、甘い匂いの正体は枯れて銜色
に発酵し始めた葉なのです。

秋にもっともよく香るのは落葉した葉が多いからです。香りは湿っていると弱くなり、乾燥した
日のほうがよく香ります。また、この甘い香りは分解が遅く、遠くまで風に乗って運ばれて行き
ます。キンモクセイやジンチョウゲと同じくらい遠くまで香ります。春は前の年の葉が香ると思わ
れ、夏は春一番に展開した葉が伸びた芽の先端に被圧されて役目を終わり落葉するときに香るの
です。条件が良いと、1枚の葉でもかなり香ばしい香りを発します。

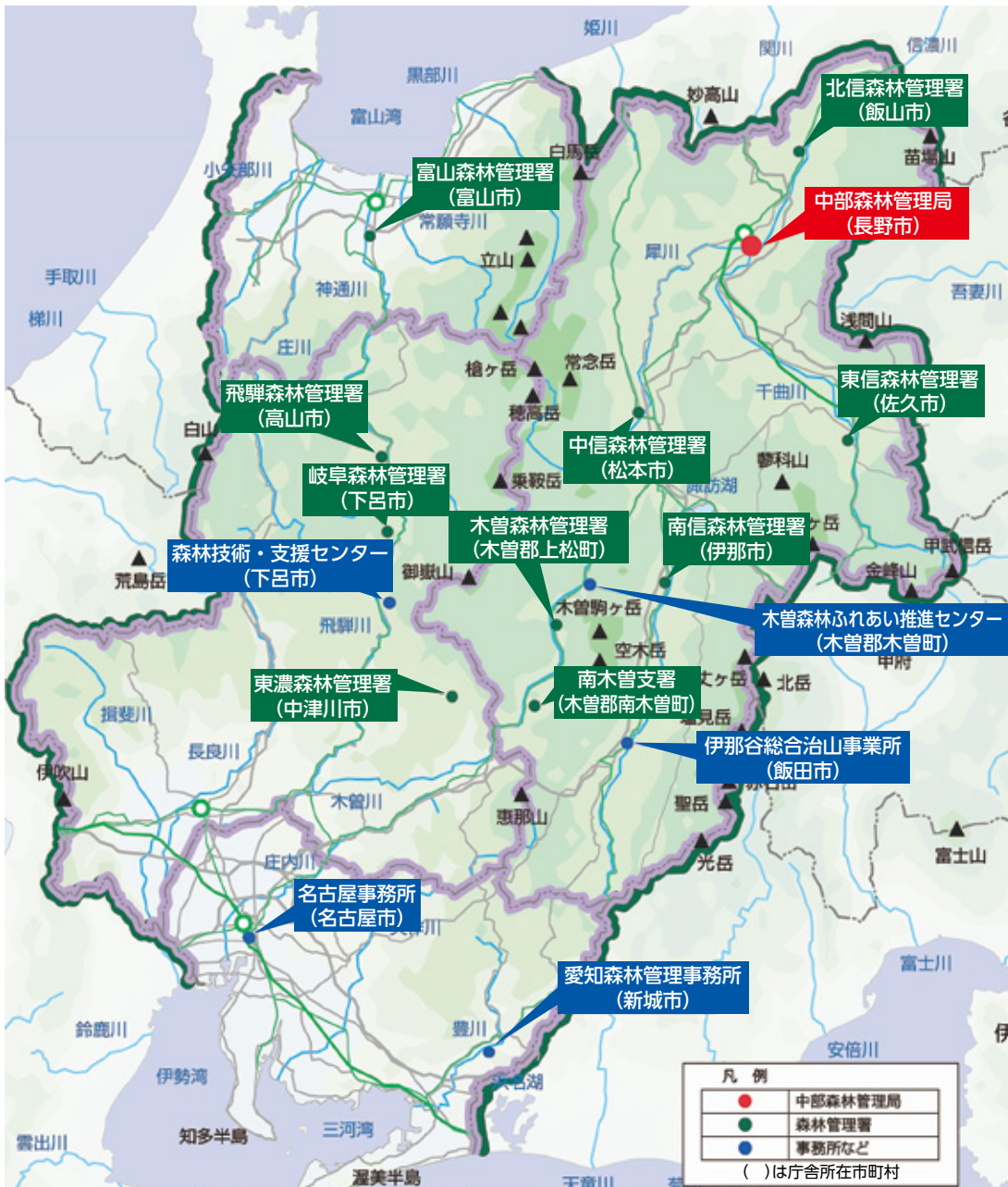
さて、紅葉のシーズン、お出かけ前に、いつでもお気軽に自宅から森林や自然
の風景を楽しむことができる「デジ森(もり)」で、美しい風景をチェック
しては、いかがでしょうか。



デジ森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。



1. 馬瀬川紅葉 (岐阜署管内)



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局ホームページ



広報「中部の森林」



用語の解説
本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
FAX：026-236-2733
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>
または、右のQRコードを読み込んでください。

